

[理容理論]

例題1 理容技術における技術姿勢に関する記述として、妥当なのはどれか。

- (1) 正対して技術をしない習慣が身に付いてしまうと、長い間には体の悪い癖となってしまうが、職業上、避けられないものである。
- (2) 技術部位に対する技術者の位置は、前方 0° 、左側方 90° など、位置と角度で表す。
- (3) 正しく立つには足の構え方が基本である。基本足位は一度で立たず、毎回順序をおって行う。
- (4) 目線の高さで行う技術のときは技術部位と目の距離は $50\sim 60\text{cm}$ 、低い位置で行う場合は体と技術部位の間は $60\sim 70\text{cm}$ くらいがよい。
- (5) 技術によっては、疲労や痛みが伴う姿勢でも続ける必要がある。

解答 (2)

例題2 レザーに関する記述として、妥当でないのはどれか。

- (1) レザーは、1枚のくさびの作用によって毛を切削する用具であり、日本かみそりと共にその鋭利性を誇る刃物用具である。
- (2) レザーは、刃の断面が左右対称の刃形態（両刃）で、日本かみそりは左右非対称（片刃）の刃形態である。
- (3) 替刃式レザーは、構造が単純であり、衛生面でも扱いが容易である。
- (4) 替刃の刃角の多くは、 $20^{\circ}\sim 23^{\circ}$ であり、刃先には防さび作用・刃先潤滑性・刃先耐久性の向上を考え、様々なコーティングがされている。
- (5) 替刃式レザーは、使用するごとに消毒を行い、常に清潔を保つよう心がける。

解答 (3)